

令和5年度 筑後市立筑後保育所 自己評価結果

「保育所保育指針（平成29年3月告示、平成30年4月施行）」（以下「保育指針」という）において、保育士等及び保育所の自己評価並びにその公表が努力義務として位置付けられています。また、筑後市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例でも、特定教育・保育施設は、自らその提供する特定教育・保育の質の評価を行い、常にその改善を図らなければならないとされています。このことを踏まえ、筑後保育所では保育の質の向上を図るために自己評価を実施しました。

自己評価を通して、自分たちの保育のよさや課題に気づき、次の保育計画へ活かしていくことで、より良い保育を提供し、保護者の皆様や地域の皆様との信頼関係がより良く、より深まるよう努めてまいります。

【評価のねらい】保育指針で示された方向性に沿った保育ができているかどうかを評価して、保育指針の改定内容の理解を深めるとともに、保育の改善に活かす。

【評価項目】①指針に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の視点で評価する。

②保育の実施及び保育所運営に関する項目

【評価の判定】 ①については下記の基準で評価する。

- ◎=10の姿の方向性につながる活動ができている。
- =10の姿の方向性に沿っているが、充実・改善等を要する点がある。
- △=10の姿の方向性を意識した活動ができていない。

②については、

- ◎=できている。
- =ある程度できているが、充実・改善等を要する点がある。
- △=ほとんどできていない。もしくは、できていない。

【評価方法】評価項目について、個々の保育士、職員が評価を行い、評価結果を持ち寄り、保育所としての自己評価を決定する。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について

保育所保育指針第1章「総則」に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、保育所保育指針第2章「保育の内容」に示されたねらい及び内容に基づいて、各保育所で、乳幼児期にふさわしい生活や遊びを積み重ねることにより、保育所保育において育みたい資質・能力が育まれている子どもの具体的な姿であり、特に小学校就学の始期に達する直前の年度の後半に見られるようになる姿である。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、とりわけ子どもの自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特성에応じて、これらの姿が育っていくものであり、全ての子どもに同じように見られるものではないことに留意すること。

健康な心と体	保育所の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、保育所内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
言葉による伝え合い	保育士等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

1. 保育指針に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の視点から、保育実践を振り返り評価する。

1	健康な心と体	評価 ○
<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムによって身体をできるだけ動かすことにより、満足感を持つ子になっている。 ・日々の遊びの中で、自分のやりたいことに向かってイメージを持つことができているが、先の見通しを持つことがまだ難しいと感じることがある。 ・保育所の生活を安心して送れる心の状態かの把握、見通しを持てる様な声かけの工夫。 ・薄着の生活を心がけ、毎日戸外へ出て、思いっきり体を動かして健全な体作りを行っている。 ・寒いとき足を怪我した時以外は裸足で遊ぶようにした。裸足で遊ぶことによって、脳がどんどん刺激され、運動神経、発達にも好影響があると思う。感染症が流行した時は、手洗い、うがいを自ら進んで行える環境作りをした。 ・天気が良い日は戸外で裸足で水遊びや泥遊びをして元気いっぱい遊び、室内ではリズム遊びをしたりと沢山体を動かし健康な体づくりしている。 ・衣類ではその日の気温に合わせて沢山着込んでいる子には声をかけ薄着になるよう促した。 ・雨あがりの日には、裸足で駆けていき、水たまりで泥だんごを作ったり、また別の日には砂場で山を作りトンネルを完成させたりと、思いのままに遊びを楽しみ、からだを十分に動かすことができる。 ・子どもの体調の変化に気づけるように、毎日の子どもの様子や会話等をしっかりと観察し、異変に気付けるように心がけている。また、時計を見たり、生活の流れに見通しを持てるような声かけを意識している。 ・子ども一人ひとりの月齢や成長に合わせて、無理のない範囲で、保育や活動に取り組めるように心がけてきた。 ・日々の気温や体調に合わせて、薄着を心がけ、裸足で過ごすことで快適に生活できる環境を作ってきた。 ・興味のあることに意欲的に取り組む子もいれば、消極的で周りの様子を伺い、じっとしていることが多い子もいた。少しずつ環境に慣れ、初めてのことにも挑戦できるように楽しい雰囲気の中で、誘っていくうちに、いろいろなことに参加できるようになってきた。 <p>《3歳以上児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戸外遊びでは、限られた玩具の中から、自分で選択し、考えながら身体全体を動かして遊びこむことができていると思う。 ・鉄棒や跳び箱、竹馬等、自分の中で目標を持って取り組むことができていると思う。 ・毎日、朝の身支度から帰りの準備まで繰り返し生活していく中で、子どもたち自身も、一日の見通しを持ち、安心して生活できている。また、次に行う活動を話しすることで楽しみをもって活動が出来る。 ・生活面で、自分から排泄や食事の準備など見通しをもって取り組むことが出来る。戸外では、薄着や裸足で過ごすよう心掛け、園庭遊具や泥や水に触れながら積極的に遊び、遊びの中で自信や充実感を感じている。 <p>《3歳未満児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0歳児なので、一人一人の育ちの中で、安心して過ごせるように常にゆったりとした気持ちで関わることに気がつけた。 ・一人一人に応じて午前睡を取り入れ、休息できる工夫を行った。 ・一日の流れのリズムを整えた。(毎日の絵本の読み聞かせ、手洗い、排泄、水分補給) ・会話でのやり取りが難しい月齢の子に対しても積極的に声かけをする。「おいしいね～」 「痛かったね」など、自分の思いを言葉で代弁することで自分のことをわかってくれるんだと感じ信頼関係が築ける。そして、発語に繋がり、自分の世界から友だちや保育者など広がっていくことになる。 		

・リズムで体を動かしたり、集団遊びをしたり、日々の生活であそびを通して「健康な心と体」を育てることに繋がっていると思う。

2	自立心	評価
		○

《共通》

- ・ごっこ遊びやわらべ歌遊びや砂遊びで、元気に遊びながら自立心を育てることにつながっていると思う。
- ・寒いときの外遊び、防寒具を着ていない子どもについて「ジャンパーは？」と言ってしまっていたが、子ども自身が寒いなら防寒具を着るし、保育士から言われて着るのではなく、子ども達が自分で寒さを感じることを意識するようにした。
- ・なんでも指示するだけではなく次は何をするのかを考えられるような環境作りを行う。そうすることで子どもたちが次に何をするのかを考え自分たちで動けるようになってきた。
- ・毎回着替えをするのではなく汚れたときにのみ着替えるなど考えて行動できるようになってきた。
- ・衣服の着替えにおいては、着脱の呼びかけを補助しながらも、子どもたち自らが行動できるように意識して声かけをしている。
- ・子どもの主体性を大事にし、必要に応じて声かけをし、励ましながら、対応するよう、普段から意識している。

《3歳以上児》

- ・例えば、製作など、自分の力では行えずわからないことがあるときなど、自分から「わからない」と表現できない子もいるので、更に細かく対応する必要があると感じる。わからないことをわからないと伝える力を育てることももっと必要。
- ・1つの行動が終わり、次の活動に移る時、自主的に行動できるような声かけをする。また、そのような行動ができている場面を見かけたら、認めて自信につなげる。
- ・難しい活動や苦手な活動がある時に、挑戦する前から諦めたり、自信を無くしてしまう子がいる。その時に、もっと積極的に励ましや自信に繋がる声掛けをすべきだったと思う。
- ・就学に向けて、話を聞く態度や目上の人との関わり方等、自分自身で考えて行動できるような、指導や声掛けが必要だったと思う。
- ・一人ひとりの意欲を大切に、保育士自身も見守るように心がけて、できない所は一緒に行き、やり方を伝えて、子ども自信が達成感を味わえるように関わっていった。また、運動あそびを通して、できないことにチャレンジして行く中で、諦めない心を学ぶことができたと思う。
- ・落ち着いた生活空間の中で、荷物の整理や衣服の着脱、汚れたときは自分で気づいて着替えるなど身の回りのことは自立心を持って積極的に取り組んでいる。また、自分で何かを汚した場合は、自分で処理しようとする。

《3歳未満児》

- ・ズボン・パンツの着脱など、介助を必要とする時と、「自分で」やりたい時の関わり方。自分で決めたり、行ったりする時はなるべく見守りながら、必要に応じて援助することで、できたという達成感を味わえるように関わっている。イヤイヤ期では本児が選択肢を自分で選べるよう、服やズボンなど「どっちにする？」や「どれにする？」などと声をかけ、関わることで自立心が育つのではないかと思う。
- ・排泄の自立を目指し、トイレに行くことを習慣化してきた。排泄前後にパンツやズボンの着脱の練習もしており、日々の積み重ねで上手にできるようになっている。
- ・トイレでの排泄や衣服の着脱は、毎日の繰り返しで少しずつできるようになっていると思う。子どもの“やりたい”という気持ちを大切にしながら関わることで「自立心」へ繋がっていると思う。
- ・お茶や給食をこぼしたら自分で雑巾を取りに行き自ら拭きくことができる。また、保育士の声掛けを待つのではなく、自分で次の行動を予測して動くことができる。

3	協同性	評価 ○
<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会など、転んだ子には大きな声で「がんばれ」の声かけを心がけており、チームワークも協同性につながっている。 ・朝夕の合同保育以外でも、友達と一緒に食事をとったり、リズムを一緒に楽しんだり、関わりを大切にできるように心がけている。 ・松ぼっくりやどんぐりなど、自然物を使って遊ぶ中で、友達と同じ遊びを共有し、一緒に遊ぶなかで、お互いに譲り合ったり、遊びを工夫したりする姿がみられた。 <p>《3歳以上児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちとの関わりが増えているが、その中で自己主張ばかりになることも多く、相手の思いに気づけないこともまだまだあるので、保育士が仲立ちとなり、相手の思いや主張も受け止めつつ、共通の目的に向かうことができるよう援助していく。 ・集団ゲームを通して、勝ちたい→負けた→友だちを応援という気持ちを体感、自分の気持ち、周りを思いやる気持ち、一緒に楽しむ充実感、一体感を味わうことができていると思う。 ・クッキングを通して友だちと協力して食材を切ったり、炒めたりしながら料理を完成させる。他にも、野菜や花のお世話も友だちと協力することで協同性が育つのではないか。 ・お泊り保育や運動会、卒園式等、様々な行事を通して友達と協力して取り組む大切さや充実感を味わうことができたと思う。 ・友だち同士の関わりが深くなり、「一緒に遊ぼう！」と声を掛け、数人で集まって遊ぼうとするようになってきた。その中で、自分の意見を述べたり、相手の意見を聞いたりしながら、時にケンカになることもあったが、遊びを自分たちで膨らませながら発展させることができていた ・友だちと一緒に遊ぶことで、ぶつかり合いながらもお互いの気持ちに気づき、一緒に作ったり、見立て遊びを楽しんだりすることができている。また、集団リズムや集団遊びをする中で、友達と意見を交わしながら進めることが出来ている。 ・日々の保育の中で、友達と関わっている姿を見守る。必要以上に子どもへの声かけをするのではなく、子ども達に相手の気持ちや思いを自分で気付けるようにした。例えば、なべなべそこぬけでは、自分一人のことだけを考えるのではなく、相手のことまで考えないと上手く出来ないことがあった。 ・集団遊びをする中で、ルールを学び、協調性を身に着けることができるが、ケンカになる子や、途中で諦める子も多く見られた。おもちゃの貸し借りでは、譲り合う姿が見られるようになった。 ・給食当番では、早く準備ができたグループが行うため、声を掛け合いながらやる気を高め合うことができた。周りの声が届かず、グループとして高め合うことができなかったグループもあったため、声かけを工夫する必要があった。 ・製作等の課題を達成したり完成させたり、先に出来た子どもが、次の子どもへやり方を伝えたり、準備したりする姿は、協同性を育てる取り組みだと思う。 <p>《3歳未満児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びを通して友だちとの関わりを持つように保育を心がけた。 ・同じ遊びを一緒に楽しんだり、おもちゃの貸し借りをしたりして友だちとの関わりを広げているため、「協同性」に繋がっていると思う。 		
4	道徳性・規範意識の芽生え	評価 ○
<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックの取り合いがあると、みんなで共有して使う物がわかり、友だちと折り合いをつけている。 ・友達が泣いていたら、思い当たる子どもに理由を尋ね、どうして泣いてしまったのかを考えさせる機会を与えたり、その場合にどうすれば良かったのかを一緒に考える時間をつくったりしている。 ・友達同士でのトラブルの際には、双方の意見を聞き、お互いの気持ちを聞いたうえで、問題解決に導けるよう、対応している。 		

・言葉の理解ができるようになると、少しずつ保育士の言っていることがわかるようになり、気持ちの折り合いが付けれるようになってきた。

《3歳以上児》

・まだ自分本位なことが多く、どうして〇〇するのか、決まりを守ることがどうして大切なのかを理解できていないように感じる。個々に応じて理解度が違うので一人一人に寄り添うことと、集団としての過ごし方をわかるようにしていく必要がある。

・子どもの内面の成長も様々で、自己主張がはっきりできる子、できない子、遠慮してしまう子、自分が一番の子・・・もめ事が起きた場合、白黒つけることに焦点を合わせすぎずに、冷静に互いの話を聞き進めていくことが大切だと思う。

・年齢が上がるにつれて、友達のことと考えて話をしたり、行動する子が増えているが、自分の気持ちをコントロールすることが難しい子中にはいる。

・善悪の判断がまだまだ甘い子が多い。自分の行動一つで大きな事故や怪我につながることもあるということを、もっとしっかり伝えていくべきだったと思う。

・していいこと、悪いことが分かり、相手を注意する姿が見られるようになってきたが、注意された方が言われてカッとなり、手が出てしまうことがあった。注意する方も優しい言い方にしようね。自分が言われて嫌なことは相手にも言わないようにしましょう。などと、その都度クラスや全体や個別で話をしていた。

・日々の遊びの中で友達とのトラブルもあるが、相手の話を聞こうとする姿がある。また、トラブルの際は、自分たちで話し合い、折り合いをつけようとする姿も見られる。園全体でのルール（ものの使い方や置き場所など）やクラス内の約束事など定着の難しさがある。

・決まりを守ることを必要以上に子ども達に伝えてしまうことが多かった。1から10まで伝えるのではなく、自分たちで考えることも必要だと思う。

・良いこと悪いことの理解が出来るようになり、友達同士の中でも少しずつ自分たちでごめんねやありがとうが言えるようになってきた。

・自分がされて嫌なことは友達にはしてはいけないことや、友達が嫌がることはしてはいけないという約束をしているが、友達とトラブルになり嫌な思いをさせることもあり、自分の気持ちを整理して抑えることが出来ていなかった。

・友達同士のトラブルを見ていた周りの子が、状況を判断し、諭すような言葉をかけたり、友達の思いに寄り添うような素振りを見せたりするようになった。

《3歳未満児》

・0歳児だったので、友だちとの関わりが少なくできなかった。

・おもちゃの取り合いで叩く、噛みつく、引っ張るなど、自分の思いを表現することが多かったが、少しずつ自分以外の存在が分かるようになり、泣いている友だちの頭をなでたり、「どうぞ」とおもちゃを譲ったり、「ごめんね」と言えるようになった。感情の変化がある絵本も興味を持って聞く姿が見られていた。

・散歩に行く時や室内での過ごし方を言葉で伝えていたが、ケガにつながりそうになったり、周りの友だちも一緒になって柵に登ったりしたことがあったため、「△」とした。

5	社会生活との関わり	評価
		○

《共通》

・警察署や消防署に散歩に行くことにより、自分達の住む地域の良さを感じとり、親しみを感じていると思う。

・保護者送迎のわずかな時間にも、日ごろの情報を共有し、子ども達の成長を見守る場面をつくるよう努める。

・保育参観や運動会では、親子の触れ合う場を設けることができた。

《3歳以上児》

・散歩へ出かけた際など、歩きながら人の家の物を触ったり、公園などで他の子ども達への譲り合いなど、周りを見る力ももう少し育ってほしいと感じるので、「ダメ！」と言うのではなく、「～した

方がいいね」など、プラスの言葉かけを心がける。

- ・散歩や遠足等で、地域の方に自ら挨拶をしたり、公共の施設の利用の仕方等を学んだりして、社会との繋がりを意識するようになったと思う。
- ・散歩で行き交う人に挨拶をするなかで社会とのつながりをもつことができた。交差点では、右左を見て渡ったり、信号では、青になったら渡れることを学ぶことができた。
- ・園外に出る機会が増え、散歩で地域の人と挨拶を交わしたり、公園での遊び方や公共交通機関の利用の仕方やマナーについて話したりし、子どもたちも保育者と共に意識するようになった。
- ・散歩に出かけた時など、すれ違う人達に挨拶を促したり、交通ルールを教えたり、公共の場では他の人達もいるので迷惑をかけない、みんなで遊ぶ場ということを意識させるようにした。
- ・散歩の途中にすれ違う方と挨拶を自らする子も増え、褒められた子の真似をして意欲的に挨拶する子の姿がみられた。
- ・散歩に出かけた際には、近所の方々に元気よく挨拶が出来る。散歩や遠足で行った先の公園で公共の物を使うという自覚をもって遊ぶことができる。
- ・散歩で地域の方と挨拶を交わしたり、公共の施設や交通機関を利用する機会においては、社会生活との関わりが十分にできていると思うので、このような機会を増やしていきたい。
- ・天気のいい日には、散歩に出かけ、道中すれ違う地域の方々と挨拶や言葉を交わすことができたと思う。
- ・お手伝いを好んで取り組めるようになり、褒められるとうれしくなり、意欲的に取り組む様子が見られるようになった。

《3歳未満児》

- ・散歩に行き、地域の人とのふれあいを大切にした。
- ・散歩に行き交通ルールを知ることができた。車がないか確認、信号の確認。すれちがう地域の方への挨拶も職員がお手本となることで子ども達も自然と挨拶をするようになったり、笑顔で手を振ったり交流が見られた。
- ・子ども達と家庭での様子を話したり、泣いている友だちがいるのを見つけティッシュを渡したり、頭をなでたりして、自分だけでなく、友だちがいることを意識できるように関わることを意識した。

6	思考力の芽生え	評価
		○

《共通》

- ・砂遊び、泥団子作り、ごっこ遊びの中で、工夫したり興味を持ったりする関心が育まれている。
- ・興味を持ったことを保育士に尋ねる姿が見られた。自分の思いを一生懸命話す様子も見られた。
- ・様々な植物に関心を持ち、お互いに好きなものを見せ合い、思いを伝えることができる。

《3歳以上児》

- ・自分の考えが正しいと主張することが多いので、「～もあるけど、○○もいいね」など、共感したり受け止める柔軟な心が育つよう日々の声かけの仕方を工夫する。
- ・自分でおかしいと思ったとき、毎回職員に伝えに来ることが多い。自分の言葉で友だちに伝える力を育めるように対応を工夫したいと思う。
- ・友達の絵画や製作物を見て、良い作品だと感じられるような声掛けをもっとするべきだったと思う。又、友達同士でどう感じたか、良いところを褒め合い、次はどのような風に作品を作ってみたいか等、意見を言い合える時間も作れると良かったと思う。
- ・絵本や散歩などを通して、疑問に思ったことはどうしてこうなるのか尋ねてくるが増えてきた。子どもたちの疑問にすぐに答えを言うのではなく、一緒に考えたり、友だちの意見を聞いたりして、色々な考えがあることを学べるように意識して関わっていった。
- ・季節の移り変わりの中で動植物の変化や自然の変化など自分が感じたことを積極的に話し、友だちと共有することで、さらに興味を広げることが出来ている。既製の玩具だけでなく、身近なものを使って、工夫して遊ぶことが出来ている。
- ・描画などでは、その子の思いやイメージを大切にしたい。褒めすぎると、他の子ども達が影響され、自分の中で思い描いていたイメージが崩れ似たような絵、真似してしまう絵になってしまうので、子

子どもが話してくれる思いや気持ちを受け止めるようにした。

・子どもたちとの遊びの中で、子ども同士の会話に入りながら指示を出しすぎてしまうことがあるので、子ども自身が考えられる時間を大切にしていきたい。

・身近な生き物を一緒に飼って、成長を喜ぶ機会を設けた。

・おしゃべりが上手になると、興味を持ったことを保育士に尋ねたり、友達に話したりする様子が見られるようになった。保育士や友だちと話す中で、自分の思いを一生懸命話す様子も見られた。

《3歳未満児》

・戸外遊びの際、絵本で見た飛行機やヘリコプターの音が聞こえ、探す姿が見られたり、散歩中の犬の鳴き声を聞いて「ワンワン」と言ったり、絵本で見たり聞いたりした内容と一致するようになったのは思考力の芽生えだと思った。

・水遊びでは蛇口をひねって水が出たり、水に触れると形が変化したりすることを楽しみながら活動ができた。自分の気持ちを言葉で友だちに伝えたり、言葉にならない思いを汲み取り、代弁したりして、新しい考えに触れることができるように声かけすることを意識した。

7	自然との関わり・生命尊重	評価
		◎

《共通》

・虫などを捕まえてそのままにしたり、つぶしてしまったり・・・など、つかまえる先にあることに目を向けられない子もいるので、その場だけの感情でおわらせないように継続的な見守りが必要。

・散歩の活動中見かける草花や自然に関心を持つような声かけを工夫し、興味・関心を広げられるようにと思う。

・戸外遊びや散歩を通して、季節に応じての自然の変化を一緒に見たり、感じたりすることができた。子どもたち自身も興味、関心を持ち、気持ちを共有することができた。男児は特に虫探しが好きだったので、様々な虫を見つけては、命があることを理解し、大切に扱う姿が見られた。

・花やどんぐりまつぼっくりなど散歩の時に拾ったり、虫を見つけては触って捕まえる子もいたり自然を楽しむ姿が多く見られた。

《3歳以上児》

・金魚やかぶと虫を世話したりする中で、命あるものを大切にする気持ちを持つことにつながっていると思う。

・畑で作物を種や苗から作り、育て、収穫し食べるという、一連の流れを実際にやってみることで食物の大切さや育てる大変さ等を感じ取ることができたと思う。

・カブトムシやクワガタ、カニ等、生態を観察しお世話をする事で生命の大切さを感じることができたと思うが、中には、生き物の扱い方や死に対する意識が薄い子もいた。子どもにもわかりやすい声掛けを心掛けるべきだったと思う。

・水遊びでは、水や砂・泥などにふれ、砂の重さや水の変化などを実体験を通して様々な気づきがあった。虫や幼虫、水辺の生き物の飼育を自分たちで役割分担をし、自分たちで取り組むことができている。また、命の尊さを学び、愛情を感じることができた。

・散歩では、季節の草花や昆虫など、子ども達と探したり、捕まえたりと一緒に楽しく楽しんだ。草花を容器に入れ飾ったり、捕まえた虫や幼虫の世話をしたり、死んでしまった時は一緒に悲しんだり、命の尊さを感じることが出来た。

・散歩に出たら、木の実や葉っぱ、食べられる植物などを持ち帰り、製作に使ったり、クッキングをしたりと興味を示し、関心を持つことができる。

・水や土、石に触れて遊び、畑で野菜や花を育て、生き物を飼育することで自然との関わりが十分にでき、身近な命を大切に育てる機会になっていると感じる。

・保育所の中で、植物を育てたり、生き物に触れる機会も多く、疑問に思ったことは、保育士や友達に聞いたり、図鑑や本で調べたりと、意欲的に取り組んでいる。

・トンボやカエル、ちょうちょなどに関心を抱き、興味が出たタイミングで絵本や保育士の話などから、さらに関心を深められた。幼い子どもに命の大切さを伝えるため始めの段階として、生き物に関心を持つこと、よく観察すること、そっと扱うことなどを丁寧にいっしょに行った。

<p>《3歳未満児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戸外に出かける機会を多く取り入れ、虫・草花に触れ合う機会を作った。 ・戸外遊び、園外保育などを通して、季節の変化を見て触れて感じる事ができていた。草花も持ち帰り部屋に飾ったり、水遊び、落ち葉遊び、雪遊びなど身体全体で楽しむことができた。 ・散歩に行き、季節の草花に触れることを大切にしていたが、あまり散歩に行けなかったため「△」にした。製作活動や絵本を通して季節を感じることはできたと思う。 		評価
8	数量・図形、文字等への関心・感覚	○
<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あまり、日ごろの保育の中で意識が低い分野だと思う。 ・もう一回！や、一つ、などの簡単な数に関心を持ち、友だちの影響もあって知らない子も真似をし、覚えて使うようになっていた。 <p>《3歳以上児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びや生活の中で見たりする友達の名前が、人をつなぐ役割を持つことに気づくよう、おたより帳を配るときは確認をし、声かけている。 ・おやつの際に、自分で個数を数えたり、じゃんけんに興味を持ったりする姿があるので、そこから更に発展させる工夫が必要。 ・就学に向けて、文字を読めるようになってきたり、時計を理解できるようになってきたり、もっと興味関心を引き出せるような声掛けを心掛けるべきだったと思う。 ・毎日シール貼りを行うことで、今日の日付を意識するようになってきて、自然に数字を覚え、数えられる子が増えてきた。また、10までしか数えられなかった子たちも少しずつ大きな数まで数えられるようになってきている。 ・室内玩具も限られているため、図形や文字にふれる機会が少ないが、園外では木の枝の数を数えたり、葉の形を見立てたりと遊びに取り入れた。また、園外活動で標識や看板に目を向けられるようにした。 ・おやつの際はクッキーなど、子ども達と一緒に数を数えたりしたが、3歳児ということもあり、もう少し数や数量などに接しても良かったのではないかなと思う。 ・数の絵本をみるのが大好きな子が多く数字に興味を持つ子が多かった。時計を指さし一緒に喜んでる姿がみられ楽しく数字に触れ合えた。 ・時計を見て、長い針がどこに行ったら終わらせるのか、散歩で止まれの標識があったら止まるなどの認識がある。 ・カレンダーや連絡ノートで、数字や自分・友だちの名前に触れる機会を設け、関心がもてるようにしている。 ・毎朝のシール貼りや自分の名前を見つれたり、友だちの名前も見つれたりする姿が多く、月の絵本も自分で興味深く読んだり、文字への関心が高くなっている。 <p>《3歳未満児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0歳児だったので難しかった。 ・手作りおもちゃのぽっとなんと落としでは、手先を使いながら形を見て、力を入れてぽっとなんと落とすことができるようになり、一人遊びも集中して楽しむ姿が見られた。毎日の絵本の読み聞かせや手遊び、季節のうたを覚え、真似して動いたり言葉にしてみたりと一緒に楽しむことができた。 ・シール帳へのシール貼りで数字を見つれたり、マークの上にシールを貼ったりして「数量・図形」に触れることができた。絵本では、文字や言葉遊びをしながら「文字」について考えることができた。 		
9	言葉による伝え合い	評価
		○
<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誕生会、クリスマス、七夕、ひなまつりなどの行事時、子どもに向けた語りかけや歌いかけは、言葉で伝える意欲を育むことにつながっている。 		

- ・絵本などに興味を持ってない子も多く、週明けは特に落ち着きが見られないことが多いので、個別に読むなどの対応も必要と感じる。
- ・友達との関わりの中で自分の気持ちを相手に言葉で伝えることができる。また、保育士にも休みの日にしたことや、今日何をしたいなど気持ちを表現できる。まだ、口よりも先に手が出てしまう子もいる。
- ・子どもとの会話時に、姿勢や視線を合わせることで、子どもとの会話がより続くように意識して接している。
- ・毎日の保育の中に、絵本の時間を設けてきた。同じ本を繰り返し読むなどで、ストーリーを自然に口にするようになる。
- ・一人ひとり、丁寧に関わるように心がけた。

《3歳以上児》

- ・「ありがとう」「だいすき」「だいじょうぶ」を自然に伝えられるようにと心がけている。
- ・様々な絵本の読み聞かせをする中で、自分の好きな絵本ができたり、言葉の面白さを感じる事ができていたと思う。自分の好きな絵本について、友達同士で発表し合う場を作れるととっても良かったと感じる。
- ・図書まー号での図書の貸し出しを毎回楽しみにしており、友達同士で見せ合う姿も見られ良い活動になったと思う。
- ・休み明け、休日にしたことを話にきてくれる子が増え、人前で話すこともとても上手になってきた。ただ、自分のことを早く話をしたくて、相手が話すのを聞けなかったり、待てなかったりすることがあったので、順番に話を聞き、自分が話をしたら、相手の話にも耳を傾けようね。と話をしていた。絵本では、長編の話も随分と聞けるようになってきたが、難しい話になると、聞けない子もみられた。
- ・絵本や紙芝居に興味を持ち、意欲的に聞くことが出来ている。また、みんなの前で自分が経験したことや感じたことなどを発表する機会を作った。
- ・絵本などは好きだから、読み聞かせをする機会をたくさん設けた。自分の言いたいこと、伝えたいことがまだ上手く話せずに友達とトラブルになっている時もあったので、その時は保育士も間に入り、一緒に気持ちを伝える、考えるようにした。
- ・上手く言葉で伝えられる子もいればなかなか言葉がでない子も多い中でどう伝えていけばいいのか悩むことも多かった。
- ・手遊びや絵本を見る中で、この手遊びがしたいとか、これを読んでほしいと伝えてくれる子が多くなった。
- ・絵本や手遊び、歌遊び、ふれあい遊びなどを通して、言葉で自分の思いを伝えられるうれしさを感じられるようになった。

《3歳未満児》

- ・絵本の読み聞かせを大事にし、言葉のやり取りを楽しんだりした。
- ・休日の出来事や友だちとのトラブルで、自分がどう思ったのかを聞き、言葉でのやり取りを行うことができた。絵本を通して繰り返し内容を覚えたり、戸外あそび中に見えた物や生物の名前を伝えながら活動することを意識した。

10	豊かな感性と表現	評価
		○

《共通》

- ・花の美しいものや虫のやさしいもの、友達と心を動かす出来事にふれ感動する、感性豊かな姿を育てることにつながっている。
- ・表現することにおいて、苦手と感じる子もいるので、表現の強要にならないよう十分に注意する。まずは楽しい、自信をつける、ことを行っていく。
- ・子ども達と一緒に喜び、悲しみ、感情を表現し合う場面を大切にしたいと思う。
- ・泥んこ遊びや、水遊びなど保育士も一緒になって遊ぶことを楽しみ、子ども達一人ひとりが表現することを喜び、それに寄り添える心を大切にできていると思う。また、描画でも個々に表現できていたと思う。

- ・描画ではその子の気持ちを大事にし、美術研修に参加することで子どもたちの成長過程を学ぶことが出来た。
- ・どんな時でも、子どもと一緒に楽しみ、喜び合える保育ができるように、日頃から意識している。

《3歳以上児》

- ・劇遊びや卒園式でのお別れの言葉の発表等を通して、表現する楽しさや友達との掛け合いを楽しむことができたと思う。
- ・自分が経験したことや思いを意欲的に話し、表現することが出来ている。また、一緒に見立て遊びを楽しみ楽しい経験を友だちと共有することが出来ている。自然物の色や形の違いに気づき、製作に取り入れ作品作りを通して、表現を楽しんでいる。
- ・描画、リズム、遊び、製作など、子ども1人1人の表現を大事にした。特に製作では、世界に一つだけの作品ができ、子ども達も作り上げた喜びを味わっていた。
- ・製作では個性が溢れ楽しく取り組む姿が印象的だった。
- ・散歩や大きな行事の後に絵を描くと、気持ちがのり、楽しかったこと、よく覚えていることが絵に表現されている。
- ・リズム遊びに取り組む中で、自己表現を楽しんだり、友達との触れ合いの時間をつくったりすることは、子どもの感性を育てる機会になっていると思う。
- ・言葉や表情などで自分の気持ちを表現し、友だちや保育士とのやり取りを楽しんだり、時にはケンカをしたりする姿が見られた。泣いて訴えるだけでなく、言葉の獲得と共に、表現の仕方に変化がみられた。

《3歳未満児》

- ・誕生日会や行事に参加しおめでとうと一緒に拍手したり、音楽に合わせて身体をゆらゆらさせたりして楽しむ姿がみられた。スコップやお皿以外にも身近な廃材(カップや牛乳パック)を使い、ごっこ遊びを楽しむことができた。
- ・製作活動では、手形をしたり野菜を作ってスタンプをしたり様々な素材を使うことを意識した。松ぼっくりのツリーでは丸フェルトを隙間に入れ、指先を使いながら作り、できた喜びをクラスみんなで見せ合って共有した。

2. 保育の実施及び保育所運営に関する項目。

1. 子どもの権利

近年、多文化の共生や、家族形態の多様化、子どもの特性などの状況を踏まえ、より一層、一人ひとりの子どもの寄り添う保育が必要になっています。また、子どもの成長を的確にとらえ、子どもの心情に十分配慮しながら、安心して生活できる環境を提供することが大切です。

一人ひとりの生活習慣や文化などの違いを知り、それを認めあう心を育てよう努めている。	◎
おむつ交換やトイレ、着替え（プール含む）の際は、全裸で放置されることのないよう配慮し、他者の視線を遮る工夫をしている。	○

2. 職員に求められる資質

保育の質の維持・向上を実現する基本は、職員一人ひとりの資質です。職員が職務に責任感を持ち、子どもや保護者の見本となる人権感覚や倫理観を持ち、保育技術や知識を高める意欲がなくてはなりません。

保育指針を十分に理解し、日々の保育実践に活かしており、向上心を持って取り組んでいる。	○
研修、書籍、他園との交流等から、自身の保育の課題や不足している知識・技術の習得の機会を持つようとしている。	○

3. 保育環境

保育施設は、子どもが快適に心地よく生活できる環境を整えることが大切です。思いきり身体を動かす活動ができる環境、遊びこむことができる環境、くつろげる環境、身近な動植物や自然事象に接する機会など、子どもが興味・関心を持ち、関わりたくなるような保育環境が重要です。また、常に子どもの健康と安全に気を配り、子どもが安心して安全に過ごせる環境を保育施設全体で整える必要があります。

施設内の設備・遊具等の点検が行われ、点検に基づき危険個所の整備が迅速に行われており安全な保育環境が保たれている。	○
施設内の清掃が行き届いており、保育室・トイレ等の清潔が保たれ、イスやテーブルなどの子どもたちが使用する備品類の消毒が行われている。	○

4. 保育内容

保育施設における保育の特性は「養護と教育の一体的な実施」であり、子どもと生活を共にし、生きる力の基礎となる心情・意欲・態度を身に付けていけるように保育を展開します。

職員全体が、めざす子どもの育ちの道筋、子ども像を共有している。	○
---------------------------------	---

5. 生活と遊びの中の教育

子どもたちは、遊びを通して言葉や数、表現する力などを身に付けていきます。

乳幼児期においては、言葉かけやスキンシップ、成長発達に応じた様々な玩具や絵本との出会いや子ども同士の関わり合いなど様々な体験を通して、意欲・関心を培い、未来へ向かって生きる力を育むことが重要です。

周辺施設や地域と連携する等、子どもが地域社会の中で活動範囲を広げるための取り組みを行っている。	○
---	---